

# もんし 聞思

発行所 光山寺  
〒758-0063 大宇山田4553  
萩市 (0838) 22-1370  
http://kousanji.net

助けあうのが  
生命というものである  
水上勉

# 東日本大震災にて多くの寺院やご門徒が被災

去る三月十一日に発生した東北地方太平洋沖の地震の災害で、被災された皆様によりお見舞い申しあげます。また、この未曾有の災害によっていのちを失われた皆様、さらにはご遺族の皆様に対し、重ねて心から哀悼の意を表します。

宗門では、地震発生直後に「緊急災害対策本部」を設置するとともに、東北教区教務所(本願寺仙台別院内)と東京教区教務所(本願寺築地別院内)に「現地緊急災害対策本部」を設置し、状況把握に努め、物心両面にわたる支援をしています。

東北地方は東北全県で東北教区といいますが、九二ヶ寺が被災し、このうち二ヶ寺が津波により壊滅的被害を受けました。

この他に東京教区の一七八ヶ寺で地震による被害をはじめ、広範囲で寺院とご門徒の皆様が被災されました。さらに、福島原子力発電所の事故は、多くの方々に不安を抱かせています。本願寺では親鸞聖人七五〇回忌大遠忌法要のスローガンを、「世のなか安穏なれ」と掲げています。この宗祖のお心を感じ、被災されたすべての方々の悲しみに寄り添い、その思いをわかちあつて大遠忌法要をお勤めすることが、総長とご門主さまから表明されました。

また、この度「東日本大震災義援金」の受付窓口を開設いたしました。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。期間は、平成二十三年三月十二日(土)より当分の間。郵便振替：010004469957加入者名：たすけあい募金、通信欄に「東日本大震災」とご記入ください。光山寺本堂にも同募金箱が仏教婦人会により設置されていますので、宜しくご協力ください。



《萩組団体参拝受付締切せまる》  
いよいよ、この四月九日より来年一月まで五十六日間百十座、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が始まりました。五十年の一度のご勝縁に遇えることはまことに有難いことです。萩組二十二ヶ寺では、できるだけ多くの方々が法要にご参詣できるように、二泊三日・一泊二日のコースに分けて団体参拝を企画いたしました。(詳細は別紙) 西プランとも初日のご本山法要参拝、帰敬式の受式や大谷本廟への分骨納骨も可能です。申し込み締め切りが四月末となっております。三月十六日現在、予定参拝者三百名に対して二百名の申し込みを受け付けています。まだ余裕がありますので、多くの皆様の申し込みをお願いいたします。尚、既に参加申し込みをお受けした方は、六月末までに残金を必ずお届けください。(一泊二日は残金四万四千円、二泊三日は残金七万九千円となっております)

光山寺若院、本願寺派「司教」に昇階 光山寺総代堀誠一  
「平素は光山寺の護持発展にご協力いただき厚くお礼申し上げます。昨年十一月の報恩講の席において、光山寺若院が四月に龍谷大学准教授から教授に昇格されたことを周知させていただきましたが、本年一月二五日に本願寺派(西本願寺)の学識者の位である学階「司教」へ昇階され、二月二五日にご本山にて伝達式が本願寺派総長よりありました。

ご本山に浄土真宗の教学の研鑽をきわめる学階制度が設置されています。この学階には得業 助教 輔教 司教 勤学という五段階があります。まず、学階試験を受け合格し、次の学階を取得するには定められた年数を要し、筆記・口頭試験などがあり、さらに輔教から司教になるには、論文審査があります。勤学(定員十八名)が最高位ですが、司教(現在二二名)は勤学に次ぐ学階で、勤学と共に格別な階位として、教学の指導的役割を担っています。

このような厳しい難関と狭き門を突破し、司教に昇階された若院に対し、大いなる敬意を表するとともにお慶びを申し上げます。

若院におかれましては、ますますご精進いただき、親鸞聖人のみ教えの根本である念仏成仏のみ教え、なかでも生死を超える一切は阿彌陀仏に「おまかせする」ことであるという他力回向の信心を布衍され、専ら阿彌陀仏に帰依する生き方を広く伝道されることを念じています。更には、すでに最高学階である「勤学」への道を行っていただきたく思います。そのためには、私たち門徒が、ご聴聞等で光山寺へお参りするなど、寺を護持することが、若院「勤学」への道の励みと、後押しとなるでしょう。多くのご門徒の皆様が光山寺へのお参りを願ひして、お知らせと致します。

## 光山寺行事案内

平成二十二年年度の光山寺中期行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

### 光山寺法要

五月一・二日(日・月曜) 春季永代経法要(講師、中島昭念師)  
九月二六・二七日(月・火曜) 秋季永代経法要(講師、上原聖教師)

### 山口教区・萩組

五月十八日(水曜) 萩組初参式(萩幼稚園)  
六月 九日(木曜) 山口別院、永代経法要(萩組参拝日)  
六月十二日(日曜) 萩組仏教婦人会大会(萩幼稚園)  
六月二十五日(土曜) 萩組総代会総会(平安寺)  
六月下旬( ) 萩組若婦研修会(永照寺)  
七月 一日(金曜) 萩組仏教壮年会総会(平安寺)  
七月 十日(日曜) 萩組仏教壮年会研修会  
七月 十日(日曜) 萩組青年スポーツ大会・グラウンドゴルフ  
七月二七日(二八日)(水・木曜) 萩組子供一泊合宿(萩幼稚園)

### 子供会(土曜学校)

五月二一日(土曜)・六月十八日(土曜)・七月十六日(土曜)  
八月 六日(土曜) 原則第三土曜家族の日開催  
七月 十日(日曜)・八月 六日(日曜) 子供会と合同開催(庫裏)

### 仏教青年会

五月未定日(日曜) 午後七時 仏教壮年会総会(本堂)  
六月下旬(日曜) 午前八時 光山寺ソフトボール大会

### 仏教壮年会

五月二二日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式  
五月二九日(日曜) 午後一時半 全役員会  
六月三十日(木曜) 午前八時半 清掃・荘厳・リハーサル

### 親鸞聖人讃仰会

七月二・三日(土・日曜) 光山寺婦人会法座(佐々木大乗師)  
六月十三日(月曜)・八月 八日(月曜) 午後八時(本堂)

### 礼讃の夕べ(旧、正信偈唱和会)

午後八時(本堂)  
五月十四日(土曜)・六月十一日(土曜)・七月十六日(日曜)  
八月 六日(土曜)・九月 三日(土曜)・十月 八日(土曜)  
コース・雅楽練習会日程についてはお問い合わせください。

山口別院定例法座・毎月五日午後一時半(一月は十時半)

萩こころの電話(三分間法話) 25-7710

西本願寺の時間(KRYラジオ) 毎週日曜日午前六時から六時十分

# 募集・お知らせ



礼讃の夕べ 五月十四日(土曜日)午後八時より今年も開催!

「正信念仏偈」の練習をしてきましたお経の練習会も今年で二十一年目となります。どなたでも参加できるお経の練習会として、本年も五月から十月までの月一度の練習(原則第二土曜日の午後八時)で、お経本(聖典)を中心に日常の基本的勤行の一通りを練習したいと思えます。お経本をお持ちでない方は光山寺にて用意しますので参加当日にお申し出ください。最近では新しい参加の方も増えつつあります。お若い方、はじめて参加の方は大歓迎です。

(お申し込みは不要・無料です)

光山寺初参式 五月二十二日(日曜)午前九時半

親鸞聖人のご誕生日である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施しています。今年も五月二十二日光山寺本堂にて開催されます。生後一年くらいまでのお子さんが対象となります。仏の子として育つため仏教のご縁に初めてあつ合同の初参式です。昨今子供の減少が激しいところですが、ごつごつ親戚等に対象となるお子さんがいらっしゃいました是非お申し込み、ご参加ください。尚、お子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。当日参加できない方は個別の初参式や自宅での初参式も受け付けています。尚、叔組の初参式は五月十八日に菟幼稚園にて開催予定です。こちらも参加受付中です。



●親鸞聖人讃仰会 会員募集!

親鸞聖人のみ教えを讃仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人讃仰会」を四月よりスタートしましたので、新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず広く親鸞聖人のみ教えを仰ぐ方々の集まりです。年会費は二千円で二ヶ月に一回の開催。西本願寺の『季刊せいてん』を中心に学習します。浄土真宗聖典註釈版が必要となりますが、お持ちでない方は申し出ください。尚、開催は原則偶数月第三日曜午後八時よりとなりますのでご注意ください。(詳しくは別紙にて申し込みください。)

●本の紹介 『すくいとよるこび』大谷光真

御門主様の新刊本が「本山より出版された。根本は」まず、現代人である自分が自分の人生、いのちの引き当



て、仏法を聴聞しているかどうかが、常に仏法に導かれて生きていくかどうかが「親鸞聖人が説きあかされたお念仏のみ教えを、折々の親教で聞かせていただくよるこび」。これまで出版された法話集『願いに応える人生』と『すくいとよるこび』の三冊から十八編をまとめて新書判に。

## 光山寺本堂の修繕補修行われる

法要のない一月より急遽、光山寺本堂のガラス戸のサッシ化、畳の張り替え、周り縁側板の交換などの修繕補修作業が行われ、三月中旬に終了した。縁側板の交換などに際しては勝田組さんに多大なご尽力をいただいた。ご門徒の皆様には以前より快適な環境でご聴聞ができるようになったかと思えます。一層のご聴聞と寺院行事へのご参加を宜しくお願ひ申し上げます。



## 法話「転ぜられて生きる」長野市専福寺 峰川堯舜

情報過多のなかで 今年一月二十三日、実用放送衛生(ゆり2号a)が打ち上げられ、ニューメディア時代到来の象徴として受けとめられることになりました。いうまでもなく、これはコンピュータと通信手段の進展で大量の情報を高速でやりとりができ、さらに今、電電公社が進めている光ファイバーが全国に張り巡らされると今の生活のパターンが一変してしまい、例えば職場勤務、ショッピング、各種証明、指定券、医療、学習等々、すべて在宅で可能になるといふ、まさに私たちの今の生活の上に想像もつかない驚くべき時代が、もう数年先にやってくるのだそうです。現在ですら過多気味の情報の渦の中で、選択の手段も見出せぬまま人に勧められ、また自己の利害のみを基準としてその情報に練られつつあるのに、それに加えさらに精密で多量の情報が出現するという中で生活するということは、よほどしっかりした私の人生が確立されていなければなりません。

### 物が先行する時代

経済の高度成長政策の効果が具体的に見え始めた昭和四十一年の東大の卒業式に、学長・茅誠司氏が「人間疎外」という言葉を使われて訓辞されました。以来、全国いたるところでこの言葉が多用され、お互いの警鐘となつたのですが、その成果も見ぬまま、さらに「親子の断絶」などに気付きながらなす術もなく進みました。現代は「家庭機能の崩壊」という孤独の深淵の中に沈み込み、その寂しさからの脱出を企てる者を己の利益の追求に走らせるあまり、我利我利亡者の量産という世相を招いているのではないのでしょうか。孤独なるが故に少年を非行暴力に追込み、熟年層の自殺、離婚、そして老人の恍惚が問題とされております。この和讃に、「劫(ごう)濁(じやく)のときにうつるには 有情(うけい)よやく身(み)小(こ)なり 五濁(ごじやく)悪(あく)邪(じや)まさるゆえ 毒蛇(どくご)悪(あく)龍(りゆう)のごとくなり」と心配いただいております。すなわち物が、富が先行する時代であつて、他者を顧慮せぬ自己中心の欲望追求のあまり、小さく孤立した者の集まりになってしまった今の世相を心配いただいているのではないのでしょうか。ペレックの「物の世界」の中に「急激に出現した消費社会は、人生を愛する前に富を愛してしまつた」とあるように、生きる意味を失ってしまったのが現代なのではないでしょうか。

## 真の宗教どう選ぶ

科学技術の進歩と経済の成長のみでは、私たちに不安と孤立感を募らせるのみと知るとき、必然的に人々は宗教を求め、まさしく正しい宗教生活を営まねばなりません。その宗教も私たちの身近には十萬とも二十萬とも、欲望の数ほど存在しています。それらの中から私の宗教をどのように選択するか、その見極めとして三観点から、宗祖聖人はお勧め下さいます。その一つは、私たちの欲望(願望)をそのまま肯定し、それを叶えんとするもので、その悩みの要因を外に語り、怨霊などの祟りとか吉凶などを示して、その不成就は信心不足として責める。そのような宗教は、偽なる宗教として、九十五種世をけがすと、捨てられております。その二つは前者とは逆に、私たちの欲望を一切否定し、専ら聖なる世界を追求し、特に論理的にその教理の成立を説く宗教は、「仮なる宗教」として、「定水(じやうすい)をこらし切れず...心月(しんげつ)を観(かん)じ得(と)ぬ...」現存するこの私との、あまりに大きな距離間に泣いていかれるのです。最後に、「真なる宗教」としてお示し下さる宗教、それは私たちの欲望を単に肯定したり否定するのではなく、そのみ教えに出遇つた人は必ず転成されることを説く宗教とお勧め下さいます。洪柿の洪は、そのまま残るのではなく、柿の実の外にスーと抜けるものでなく、洪そのものが太陽光線をはじめとする諸条件に恵まれ、甘味そのものに転ぜられるように、阿彌陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、浄土で真のさとりに至るのが浄土真宗であります」と、「教書」にお示しいただいております。この浄土真宗のみ教えに出遇つた人は、平素好嫌をはじめとする愛欲の世界にとらわれ、また世間体を気にして疑心に縛られ、ますます自らの小さな殻に閉じこめられてしまつた私が、ご本願に遇わせていただくことにより、心を開き、広い世界に、限りある命を本當に生き抜く身に転ぜられていくのです。

## 看病する姿に感動

五十一歳半ばより七十歳過ぎまでの十数年間、植物人間の夫を看取つたお同行は、寺の主な法座の時以外は、すべて一人で看病し切つたのです。最初の頃は、どうせ不治の病なら「父さん死んでちょうだい」とそつと言ひ、夫の死をも願つたほど、つらく悔しさを募る毎日でした。しかし、時間を惜しむような真摯な問法を続け、看病しているうちにある日、夫の再び目覚めることのない寝顔を見つめつつ、「ふと、この私は今、味覚、視覚、聴覚があり、言葉が言え、手足も動く、その有難さに目覚めて、旅行一つ行けぬ事を愚痴つた己を恥じられたのです。そして、「こんな私を許して下さい」ご本願の教えに気が付かされて、からは、それこそ念仏とともども拝むようにして看病を続けられました。それがまいったく思ひもよらぬことながら、長男のお嫁さんが心づくしの看病をしているお姑さんの姿に感動され、それを夫に語りました。さらに三人の兄弟夫婦の知るところとなり、四組の子供達夫婦、十人余りの孫達にまで、本物の親、本物の祖母に出会つた喜びを与えて、三年後、自らも還浄されていかれました。このお同行もまた、お念仏のみ教えに遇ひ、転ぜられた真の人生を歩まれた一人であつた、と教えられるのであります。

(本願寺新報「リビング法話」59・11・1掲載)